

1. 研究の背景と目的

日本では年間約 100 万トンもの衣類が廃棄物として発生している[1]。このうち 3R されるものは 2 割程度であり[1]、さらに 3R、なかでも優先順位の高いリデュース・リユースを進める必要がある。本研究ではそのうち衣類のリユースについて検討する。

衣類を廃棄する理由や要因に関する研究はいくつかあるが、衣類をリユースしない主要な理由の 1 つとしてリユースの手間の問題が挙げられている[2, 3]。一方、手軽にリユースできる方法として近年フリマアプリが注目されている[4]。しかしながら、フリマアプリの登場前と比較して、近年の衣類のリユース状況がどう変わったのか、フリマアプリはどのように影響しているのかについては明らかになっていない。そこで本研究では衣類のリユース・排出の現状及びフリマアプリの影響について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、(1)フリマアプリの登場以前と現在の衣類の排出量・購入量及びそれらの割合を比較することで、フリマアプリが衣類のリユースに与えた影響について分析する。また(2)フリマアプリ利用の抑制要因、及び(3)利用していない人にフリマアプリの情報提供をすることによる利用意向の変化を明らかにすることで、今後のリユース促進の可能性を考察する。ただし紙面の都合により、購入に関する分析、及び、(3)は割愛する。

初めに文献調査とフリマアプリの利用状況に関する予備調査を 2019 年 9 月に 10 代から 50 代の学生と社会人、男女計 10 名に対面又はメール調査で行った。利用経験のない人にはフリマアプリの知識・イメージ・使わない要因を、利用経験者にはフリマアプリを使うに至った経緯と理由、アプリ利用前後のリユース状況等を尋ねた。その結果を踏まえて(2)に関する仮説を構築した。

次に 2019 年 12 月～1 月にインターネット調査 ((株) ジャストシステムの Fastask) を実施した。初めにスクリーニング調査を実施した (配信数 16952、回答数 1901)。そしてその回答者をフリマアプリでの衣類の売買経験により①メルカリまたはラクマを使ったことがあり、かつ衣類に関してフリマアプリをよく、またはときどき利用している人 (利用者 (衣類))、②①・③以外の人 (利用者 (衣類以外))、③利用したことがない人 (未利用者) の 3 つのグループに分け、①250 名②150 名③150 名を回収目標として性別・年齢層別に人数を割り付け、本調査を実施した (配信数①308②190③184、回答数①269②

143③142)。スクリーニング調査では、フリマアプリの利用経験、利用したことのあるフリマアプリの種類、フリマアプリの利用状況について尋ねた。本調査では①～③に共通して、世帯全体において過去一年間で不要になって処理した薄手のコート類、セーター類、ジーンズ類、小物類の枚数、過去 3 か月の間に購入した衣類の枚数、フリマアプリを利用する前と後での衣類の購入枚数の変化を尋ねた。種類別の処理枚数の質問は、フリマアプリ登場以前と比較するため 2009 年に実施された調査[1]の質問とほぼ同じものを用いた。ただし質問量、選択肢数が多く回答者の負担が大きいため、対象衣類を絞り、選択肢数を減らした。それに加え①ではフリマアプリを利用する前に不安に思っていたこと、実際に利用してみて意識が変わったこと、②では衣類に関してフリマアプリを利用しない理由、③ではフリマアプリを利用しない理由、情報提示による利用意思の変化について尋ねた。

3. フリマアプリ登場後の衣類の排出状況の変化

フリマアプリの登場以前の 2009 年に行われた調査結果[1]と現在の衣類のリユース方法別のシェアを比較するために、スクリーニング調査における 3 グループの出現比率で重みづけして全国平均の排出枚数、排出割合を推計した。ただし異常に排出量の多いサンプルが見られたため、すべての排出ルートに排出していると回答した人を除き、さらに残りの各グループ上位 1%についても推計の対象から除いた。推定例として薄手のコート等の結果を表 1 に示す。

表 1 薄手のコート・ブルゾンのルート別排出量・割合の変化

薄手のコート・ブルゾン	今回の調査結果		2009年調査		変化	
	枚数/世帯	排出割合	枚数/世帯	排出割合	増加	割合差
集団回収	0.31	12%	0.25	11%	0.06	1%
資源ごみ	0.40	16%	0.39	18%	0.01	-2%
可燃ごみ等	0.52	20%	0.58	27%	-0.06	-6%
親類等へ譲渡	0.21	8%	0.23	11%	-0.02	-2%
下取り	0.17	7%	0.09	4%	0.08	3%
古着屋等に販売	0.52	20%	0.38	17%	0.14	3%
バザー等に寄付	0.05	2%	0.11	5%	-0.06	-3%
フリマで販売	0.04	2%	0.04	2%	0.00	0%
ネットショップで販売	0.12	5%	0.11	5%	0.01	0%
フリマアプリで販売	0.20	8%	0	0%	0.20	8%
計	2.54	100%	2.18	100%	0.36	

表より、フリマアプリは 8%増で、ネットオークションの増減はない。一方、譲渡、バザー等が 2～3%減少し古着屋等や下取りが 3%増えているが、大きな変化はない。資源ごみとしての排出は-2%、可燃ごみ等は-6%と資源・可燃ごみとしての排出割合は減少している。

セーター類以外は同様に資源ごみ・可燃ごみの割合が

減り、フリマアプリが増えるという変化が主であり、全体としてフリマアプリ普及以前の推定結果と比較して、ごみとしての排出からリユースへの移行が進んだことが示唆される。一方、リユース方法のシェアについてフリマアプリ以外は概ね同程度であった。ただし、排出量はジーンズ類では8割増になっている。セーター類以外も1~3割程度増加していた。不適切な回答者の影響も考えられるが、排出割合は概ね一致しており、量的な増加は実際にあったと考えられる。

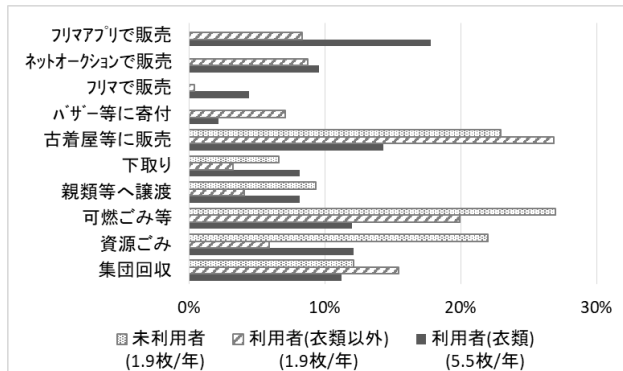


図1 薄手のコート・ブルゾンのグループ別の排出割合

次に排出ルート別割合をグループ間で比較する。図から未利用者は可燃ごみ・資源ごみへ排出する割合が多く、利用者は少ないことがわかる。リユースの中では、未利用者は古着屋等に販売する割合が多いが、他のリユースの販売はない。利用者(衣類)はフリマアプリでの販売割合が多いが、バザー等への寄付の割合は少ない。利用者(衣類以外)は古着屋等に販売する割合が多い。全体としてみると2009年と比較してごみとしての排出割合が減少しており、グループ別にみてもフリマアプリの利用者のごみとしての排出割合が小さい。利用者においてはごみとして処理することからリユース行動への移行が考えられる。ただし利用者(衣類)の排出量が特に多く、ごみ排出量には増加の方向に寄与している可能性も考えられる。ただしスクリーニング調査からは利用者(衣類)は全体の2割弱と考えられ、現状では影響は大きくないと考えられる。

4. フリマアプリを利用する前の不安・利用しない理由

利用者(衣類)に、利用前に不安に思っていたこと、利用後に意識が変わったことを尋ねた。また未利用者に対しては利用していない理由を利用者(衣類)に尋ねたこととはほぼ同じ内容で尋ねた。結果は図2のようになった。

利用者(衣類)は利用前には購入時の商品の衛生面を不安に感じていた人が全体の46.5%と最も多かった。そのほか、利用方法や商品の状態やお金の支払いに対する不安が多く、古着が好きでない人は1割程度と多くない。それに対し未利用者はフリマアプリを利用しない理由として古着が好きでないからと回答した人が最も多く全体の31.0%で、次いで特にないという結果が多かった。利

用者は利用法が分からないことや時間や手間がかかるこ

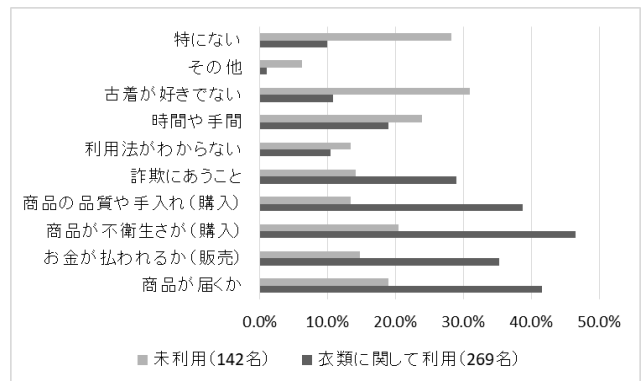


図2 利用者(衣類)と未利用者の意識の比較

よりも、買った商品や売る商品に対する不安のほうが大きかったことが明らかとなった。一方で未利用者は、利用経験者とは違いアプリの利用方法や商品の状態やお金の支払いに対する不安を持つ以前に、そもそも古着を好まないという意識がリユース行動を困難にしていると考えられる。しかしながら約7割は古着を好まないわけではない。買った商品や売る商品に対する不安などを挙げている人については、フリマアプリに出品されている商品の情報を詳しく知ってもらうことで不安が解消できるのではないかと考えられる。

5. 結論

本研究から得られた結論を以下に列挙する。

- (1) 4つの衣類の種類別に排出量の変化をみた。その結果、資源ごみや可燃ごみなどのごみとして排出される割合が減少していることから、フリマアプリが開始されたことによってリユース行動への移行が促進されていることが考えられる。フリマアプリが開始されたことでリユース行動の選択肢が増えたと考えられる。
- (2) 利用意識の変化としては、利用経験のある人は利用前に商品の状態やお金の支払いについての不安を持つ人の割合が大きいが、それに対して利用経験のない人は古着が好きではないからと回答した人の割合が大きいが結果となった。利用経験のない人は商品状態やトラブルなどの不安より、そもそも古着に対してあまり良い印象がないことが、利用を妨げる原因になっていると考えられる。

【参考文献】

- [1] 独立行政法人中小企業基盤整備機構「繊維製品3R事業関連調査事業」報告書, 2010
- [2] 山田由佳子、西澤陽子、重田美智子、「大学生の衣服リサイクルに関する意識と実態—古着の入手に着目して」、大阪教育大学紀要 2 社会科学・生活科学 52(2), pp.49-62, 2004
- [3] 田中秀幸「大学生の衣服のリユース行動促進に関する研究」、京都府立大学, 2015
- [4] 経済産業省商務情報政策局情報経済課、「平成28年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備(電子商取引に関する市場調査)報告書」, 2017